第4学年3組学級活動（1）学習指導案

町田市立　小山小学校
2026年 11 月13日（金）5時間目
対象　第４学年３組　３４名
指導者　主幹教諭　田中　秀和

1 議題　雨の日もほっこり!みんなが笑顔の「タナリン・ピック」を成功させよう

2 議題について

（1）児童について（児童観）

本学級の児童は、1学期は児童同士の関わり方や学習規律において課題が見られ、落ち着いて授業を成立させることが難しい時期があった。その後、2学期より担任が交代するという環境の変化を経験し、現在は新たな気持ちで「よりよいクラスにしよう」と学級づくりに歩みを進めている。

子どもたちは本来とても素直な心をもっており、学校行事やクラスの活動に対しては、有り余るエネルギーをもって意欲的に取り組むことができる。一方で、思い通りにいかない場面や意見がぶつかった際に、相手を否定する言葉から入ってしまったり、感情的になって相手を傷つける言葉（チクチク言葉）を使ってしまったりするなど、互いを思いやる言語環境には依然として課題が見られる。

本単元では、雨の日でも運動の得意・不得意に関わらず楽しめる室内大会「タナリン・ピック」を企画する。本時では、全員でペーパータワーの試行（ちょっとタワーづくり）に没頭する。正解のない課題に班で挑み、失敗を共有しながら「感想を伝え合う」活動を通して、友達のアイデアやよさを肯定的に受け止める力（他者受容）を育みたい。

（2）今までの話合い活動

月日	話合い活動	「議題名」・児童の様子　◇教師の指導
9/30（水）	第1回	雨の日でもクラスで盛り上がる大会をしよう ・雨の日の過ごし方に課題を感じ、みんなで楽しめる大会をしたいという意見が出た。 ◇現状の課題に気付かせ、よりよく解決しようとする意欲をもたせた。
10/15（水）	第2回	雨の日でもクラスで盛り上がる大会をしよう ・大会に必要な係（会場、音楽、司会、撮影、表彰等）を洗い出し、担当希望を決定した。 ◇一人一人の得意なことや、やりたいことが生かせるように調整を促した。
10/30（金）	第3回	大会を運営する組織をつくろう ・タナリン・ピックのための組織（会場、音楽、司会、撮影、表彰、宣伝、景品）をつくり、担当希望をとった。 ◇一部の児童に役割が偏らないよう、全員が活躍できる仕事内容になるように助言した。
11/6（木）	第4回	どんな競技をするか決めよう ・A4 紙を使ってのりを使わずに高く積む「ペーパー・タワー」などのアイデアが出され、競技に決まった。 ◇誰もが安全に参加でき、協力できる競技かどうかを考えさせた。
11/13（金）	第5回	「タナリン・ピック」を企画しよう ・話合いで決めたことを基に、実践に向けて準備を進める。 ◇決めたルール（ふわふわ言葉等）を意識してタワー作りに挑戦させ、互いのよさを認め合えるようにする。

3 学級活動(1)「学級や学校における生活づくりの参画」の評価規準

	よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
評価規準	楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。学級会の進め方や意見の比べ方、合意形成の仕方を身に付けている。	楽しい学級の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について、多様な意見のよさを比べ合いながら合意形成を図り、協力して実践している。	互いを認め合える大会の開催に向けて見通しをもち、友達のよさや自分の関わり方を振り返っている。自己のよさを発揮し、多様な他者と協働して取り組もうとしている。

4 研究主題に迫るための手だて

【自己理解】

① フォームを活用した振り返りの工夫

・活動の終末に、学習端末（Google フォーム等）を用いて振り返りを行う。記述に対するハードルを下げ、自分の考えや行動を素直に表現できるようにする。また、蓄積されたデータを後日フィードバックし、自分の成長を客観的に捉えられるようにする。

【他者受容】

① AIへの壁打ちによる「マイナス面の想定」とルールづくり（言語環境への手立て）の工夫

・電子黒板の AI（アドバイザー）に大会のマイナス面を挙げさせる。提示されたリスクを鵜呑みにせず、「自分たちにも当てはまるか」と問い返して自分ごととして捉えさせ、感情的にならず相手を思いやる「ふわふわ言葉」を用いたルールづくりへとつなげる。

② 感想を伝え合う活動の工夫（他者受容の具体化）

・ペーパータワーの試行後、班の中や全体で「感想を伝え合う」時間を意図的に確保する。「〇〇さんのこのアイデアがよかった」「倒れた時に〇〇さんが励ましてくれて嬉しかった」など、他者のよさや自分の思いを言葉にして伝え合うことで、違いを認め合い、肯定的に受け入れる（他者受容）態度を育む。

5 事前の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点
11/10 （火） 中休み	・「タナリン・ピック」を企画の準備を行う。	・一部の児童に仕事が偏らないよう、全員が何らかの役割をもてるように見守り、必要に応じて助言する。
11/12 （木） 中休み	・組織委員会を開催し、必要なものを考える	・大会本番までの見通しがもてるよう、各係の進捗状況を共有させ、学級全体の活動としてまとまるようにサポートする。

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

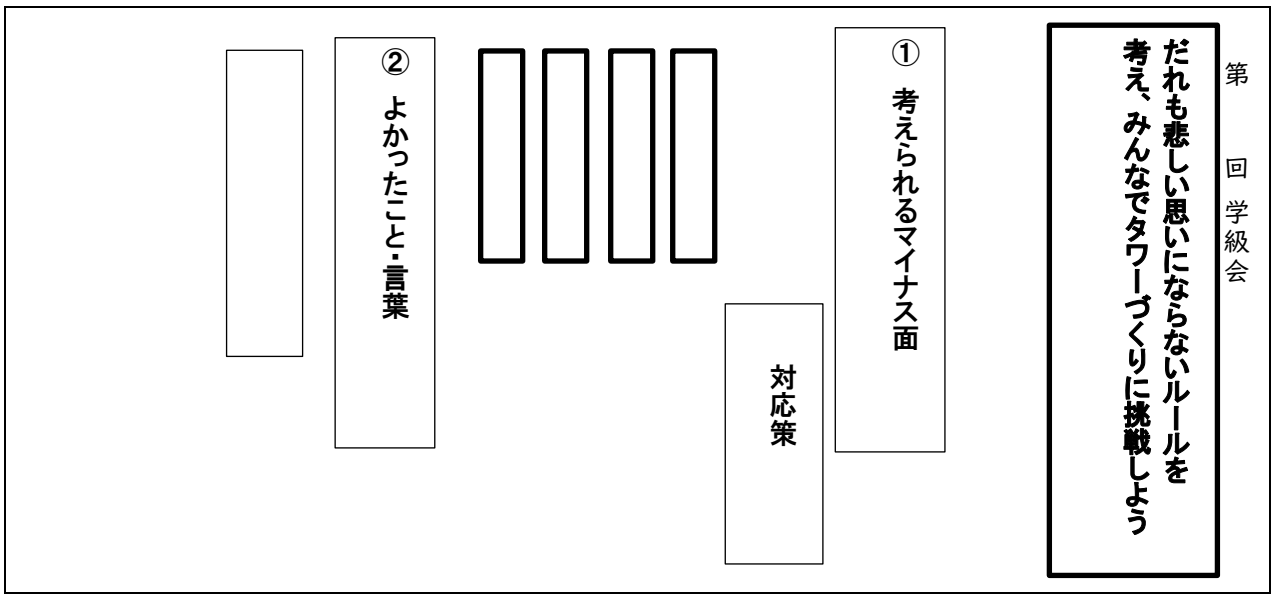
AI の視点を生かして大会のルールを考え、全員でのペーパータワーづくりと感想の伝え合いを通して、お互いのよさを認め合う。

(2) 展開

	学習活動	・指導上の留意点 ○評価(評価方法)
導入	1 議題 ・「雨の日もほっこり!みんなが笑顔の『タナリン・ピック』を成功させよう」 2 ねらい ・AI との壁打ちを通してだれかが悲しい思いにならないルールを決め、全員でのペーパータワーづくりと感想の伝え合いを通して、互いのよさを認め合い協働することができる。 3 提案理由 ・みんなで協力する楽しい大会にするために、失敗しても責め合わないルールを考え、実際に競技の練習をして絆を深めたいから。 4 決まっていること ・大会名「タナリン・ピック」 ・競技「ペーパー・タワーチャレンジ(A4 用紙のみ、のりなし)」 ・係分担(会場、音楽、司会、撮影、表彰、宣伝、景品)	・本時は係の準備ではなく、全員で競技を試行してお互いのよさを認め合う時間であることを明確に伝える。
展開	だれも悲しい思いにならないルールを考え、みんなでタワー作りに挑戦しよう。	
	5 ペーパータワーの「マイナス面」を AI と壁打ちし、ルールを話し合う。 他 ① AI への問いかけ ・「ペーパータワー大会をすると、どんなマイナス面(悲しいこと)が起こるかな?」 ② AI からの回答例(電子黒板に提示) ・タワーが倒れた時に、倒した人を責めてしまう。 ・アイデアが対立して、言い争いになる。 ・特定の人がチクチク言葉を言ってしまう。 ③ 解決するための「ルールづくり」	他者受容① ・AI に問題点を提示させて客観的な視点をもたせた上で、「自分たちのクラスにも当てはまるか」を問い返す。AI の意見を鵜呑みにせず、言語環境の課題を自分ごととして捉えさせる。 ・出された「心配な意見」も学級をよくするための大切な視点として価値付け、みんなが納得するルールへと昇華させるよう促す。
	6 全員でペーパータワーの試行(ちょっとタワーづくり)を行う。 ・班ごとに A4 用紙を使い、話し合いで決めたルール(ふわふわ言葉等)を意識してタワー作りに挑戦する。 ・タワーが倒れても、何度もやり直して試行錯誤する。	○相手の気持ちを考え、学級生活がよりよくなるためのルールについて、見通しをもって話し合っている。(発言・観察) ・「必ず失敗が起こる活動」の中で、先ほど決めた「誰も悲しまないルール」が実践できているかを見取り、全体に広めて称賛する。 ○自己のよさを発揮し、多様な他者と協働してタワーづくりに取り組もうとしている。(行動・観察)

終末	7 全体での振り返りをする。他	他者受容② ・単に「楽しかった」で終わらせず、友達のどのような言動がよかったかを具体的に伝え合わせ、他者のよさを肯定的に受け入れさせる。
	8 フォームを使った振り返りをする。自	自己理解① ・フォームを活用し、時間内に全員が素直な思いを表出できるようにする。

(6)板書計画(これまでの活動)は黒板横モニターに表示



7 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点
11月25日(水)	話合いで決めたことを基に、実践に向けて準備を進める。	・自分の役割を果たせるよう見守り、必要に応じて助言する。
12月2日(水)	・実践の終了後、振り返りをする。	・実践の振り返りをし、よかった点や改善点を次の一連の学習過程に生かすことができるよう、助言する。